



学校だよりNO35 令和5年 1月20日 児童数 487人

薫っ子 II



文責 校長 古川 次男

これが、薫の底力 II

先週は、子どもたちの底力を紹介しましたが、今週は、先生方の底力を紹介します。

授業の充実を図ることは、子どもたちの学力向上に直結するものです。この学校だよりでも何度か授業の様子を紹介したり、ホームページでも互見授業の様子を紹介したりしてきました。今は、この1年間のまとめとして授業の様子を振り返っています。そして、それらをまとめたものを1月23日(月)締め切りの「郡山市公立学校教職員研究物展」に出品しようと最後の追い込みをかけているところです。

「自らの考えを伝え・深め、確かな学力を身につけていく子どもの育成～ICTを活用した授業づくりを通して～」の研究主題の下、研修主任の北田先生を中心に、この1年間は互見授業を研修の柱として研究を進めてまいりました。1人1台のタブレットが整備されてからというもの、授業の進め方も大きく様変わりしてきました。ロイロノートという情報共有アプリを活用しながら、一人一人の学びの生かされる授業が多くなってきたように感じます。タブレットは、子どもたちが早く使いこなし、何の支障もなく学習を進めているようです。以下に、本校の研究の概要をお知らせいたします。

実践テーマ	自らの考えを伝え・深め、確かな学力を身につけていく子どもの育成 ～ICTを活用した授業づくりを通して～
<p>1 実践テーマ設定理由 教育を取り巻く社会情勢から、個々の課題に適切に対応する力や、社会を生き抜き、よりよい生き方を追求するための資質・能力を育成するために、主体的に学ぶ意欲や態度の醸成、自他の関わりの中で共同で学ぶ楽しさを実感できるような授業づくりが強く求められている。児童が確かな学力を身に付けるために、ICTを活用した学習環境の充実が有効ではないかと考え、本研究主題を設定した。</p> <p>2 実践の概略(実践記録の内容) (1) 昨年度の取り組みを受けて、今年度は「確かな学力」を身につけるための効果的なICTを活用した授業づくりを目指していく。 (2) 授業づくりでは、「ICT活用」をキーワードにしながら、授業の質的改善の8つの視点の中から、授業者が子どもたちの実態に応じた視点を選択して授業実践を行っていく。 (3) 授業後、子どもの学びの姿をもとに、学年や全体で、手立ての有効性や改善策について話し合いを深め、本研究の成果と課題をまとめる。</p> <p>3 成果と今後の実践の工夫 昨年度、教員と児童のタブレット操作技術の向上、活用事例共有に力を注いできたため、今年度は教員も児童もICTの活用がスムーズに行えた。特に、意見交流や思考共有の場面で簡単に友達の意見に触れさせることができ、児童の考えを深めるために有効であった。また、個別最適な学びを実現でき、練習問題や家庭学習でも有効に活用できた。だが、ICTの弊害にも気づくことができた。来年度は、今年度の反省を生かし、メリハリのあるICT活用を心がけた授業構想を行っていきたい。</p>	

郡山市内の学校の研究物を展示する「郡山市公立学校教職員研究物展」が、下記会場と時間で実施されますので、お知らせいたします。

【展示会場】

郡山市郡山公会堂

【展示時間】

令和5年1月27日(金) 午後1時30分～午後7時00分
 令和5年1月28日(土) 午前9時30分～午後4時30分
 令和5年1月29日(日) 午前9時30分～午後4時30分
 令和5年1月30日(月) 午後1時30分～午後7時00分
 令和5年1月31日(火) 午後1時30分～午後7時00分
 令和5年2月1日(水) 午後1時30分～午後7時00分
 令和5年2月2日(木) 午後1時30分～午後7時00分